

躯体構造検査

実施日	2022-07-20	
登録物件名	甲府市羽黒町 A様邸	
事業者名	デザインハウス甲府	
事業者立合者	梅屋	
報告者	梅屋	
総合判定	適合	

【凡例】「方法」欄 A:目視確認 B:計測確認 C:書類確認（設計図書含む）

「判定」欄 ○:適 ×:不適 -:該当なし（登録設計図書に記載がない場合を含む） 保留:判定保留

※目視・計測可能な部位で抽出確認し、保険の適否を判定します。

1.躯体工事

No.	項目	基準値	実測値	方法	判断
1-1	アンカーボルトの埋設位置は、間隔2m以内とする。	2mm	2mm	B	○
1-2	アンカーボルトのコンクリート埋込み長さは250mm以上とし、アンカーボルトの先端は土台の上端よりナットの外にねじが3山以上出るように固定する。	250mm	250mm	B	○
1-3	基礎天端の高さを水準器を使用し、水平確認する。天端レベルに合わせて調整パッキンを使用する。			A	○
1-4	基礎パッキン・気密パッキン同士の隙間がないように敷き詰め、土台とパッキンの芯を一致させる。			B	○
1-5	鋼製束施工前に基礎内を掃除機で掃除する。鋼製束の間隔は前後左右1m以内を保ち、接着剤がはみ出るまで圧着する。			B	○
1-6	土台の防腐・防蟻処理材を用いる。（土台に接する外壁の下端には、水切りを設ける）			A	○
1-7	地面からの高さが1m以内の外壁の枠組の防腐・防蟻措置を現場で塗布・吹付をする。			A	○
1-8	強度の低下、乾燥後の収縮による変形、シロアリ被害の増加、カビの発生を防ぐため、施工前に床合板の含水率は15%以下か確認する。	15%	12%	B	○

1-9	床下張材のくぎ打ちはCN50を周辺部150mm間隔以内、中間部200mm以内で平打ちする。床下張材の厚さが15mm以上の場合は、CN65が望ましい。			B	○
1-10	外壁下張りの釘のピッチはメーカー仕様の壁倍率通りに施工する。			B	○
1-11	外壁下張りの釘のめり込み具合2mm以内か確認する。 ※デプスゲージにて沈み込みの確認。	2mm	2mm	B	○
1-12	鉄製束の下部は接着剤がはみ出るまで圧着されているか			A	○
1-13	接合金物の種類・施工位置が図面通りか確認する。			A	○
1-14	壁天井 せっこうボード張りはGNF40又はSF45を使用する。			A	○
1-15	くぎ打ち間隔は外周100mm以内、中間部200mm以内の間隔で留め付ける。(2枚張りの場合) くぎ打ち間隔は外周部及び中間部とも200mm以内とする。			B	○
1-16	壁張りに用いるせっこうボードは、床面からの湿気により強度が低下しないように床面から13mm程度離して打ち付ける			B	○
1-17	壁ボードの空きは2mmを許容とする。	2mm	2mm	B	○
1-18	屋根下張材のくぎ打ちは、CN50(緑)を周辺部150mm間隔以内、中間部300mm間隔以内に平打ちする。 ※屋根下張材の厚さが15mm以上の場合はCN65とすることが望ましい。			B	○
1-19	内側から見て屋根に外し釘がないか確認する。釘は合板端部より10~15mm離す。			A B	○
1-20	勾配は適切か、水下・水上・けらばの各出寸法を確認する。			B	○
1-21	GNF40使用 外周部100mm中間部200mm以下か 端部は10mm内側に			B	○
1-22	建て方当時にアスファルトルーフィングまで施工する。上下(流れ方向)は100mm以上、左右(長手方向)は200mm以上重ね合わせる。(未施工の場合、ブルーシート養生する) 下屋と外壁の取り合い部に関しては、建て方時にアスファルトルーフィングを先行して差し込んでおく。(ルーフィング施工前に外し釘を確認)			B	○

1-23	屋根ルーフィングの立ち上がり250mm以上確保し、上端は気密テープで圧着する。かつ雨押さえ上端より50mm以上とする			B	○
1-24	小屋裏換気・軒裏換気は有効な位置に設ける。			B	○

【備考】

特記事項

--

1-2口アンカーボルトのコンクリート埋込み長さは250mm以上とし、アンカーボルトの先端は土台の上端よりナットの外にねじが3山以上出るように固定する。

備考



1-3口基礎天端の高さを水準器を使用し、水平確認する。天端レベルに合わせて調整パッキンを使用する。

備考



1-4口基礎パッキン・気密パッキン同士の隙間がないように敷き詰め、土台とパッキンの芯を一致させる。

備考



1-5口鋼製束施工前に基礎内を掃除機で掃除する。鋼製束の間隔は前後左右1m以内を保ち、接着剤がはみ出るまで圧着する。

備考



1-6口土台の防腐・防蟻処理材を用いる。（土台に接する外壁の下端には、水切りを設ける）

備考



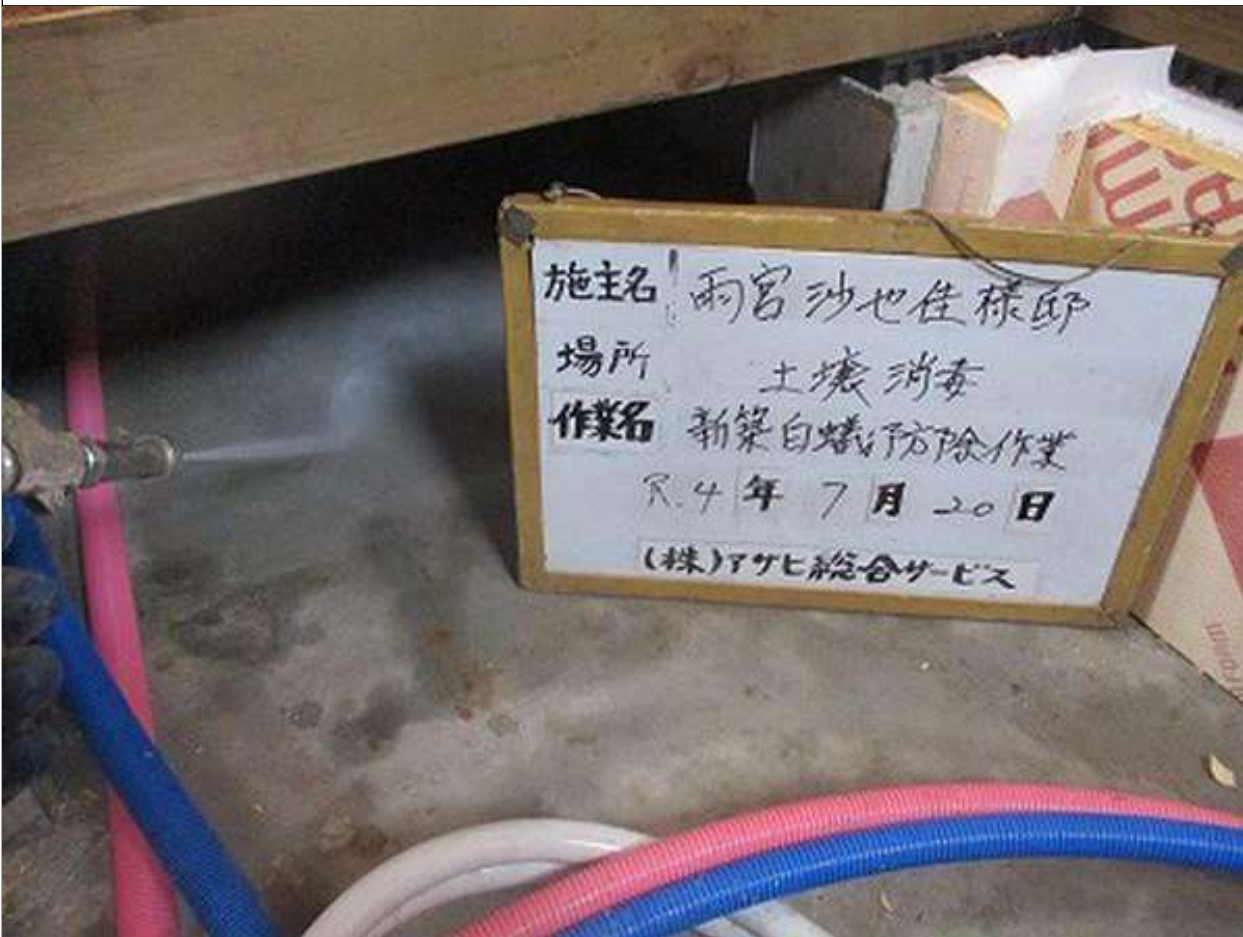
1-7口地面からの高さが1m以内の外壁の枠組の防腐・防蟻措置を現場で塗布・吹付をする。(1/4)

備考



1-7口地面からの高さが1m以内の外壁の枠組の防腐・防蟻措置を現場で塗布・吹付をする。(2/4)

備考



1-7口地面からの高さが1m以内の外壁の枠組の防腐・防蟻措置を現場で塗布・吹付をする。(3/4)

備考



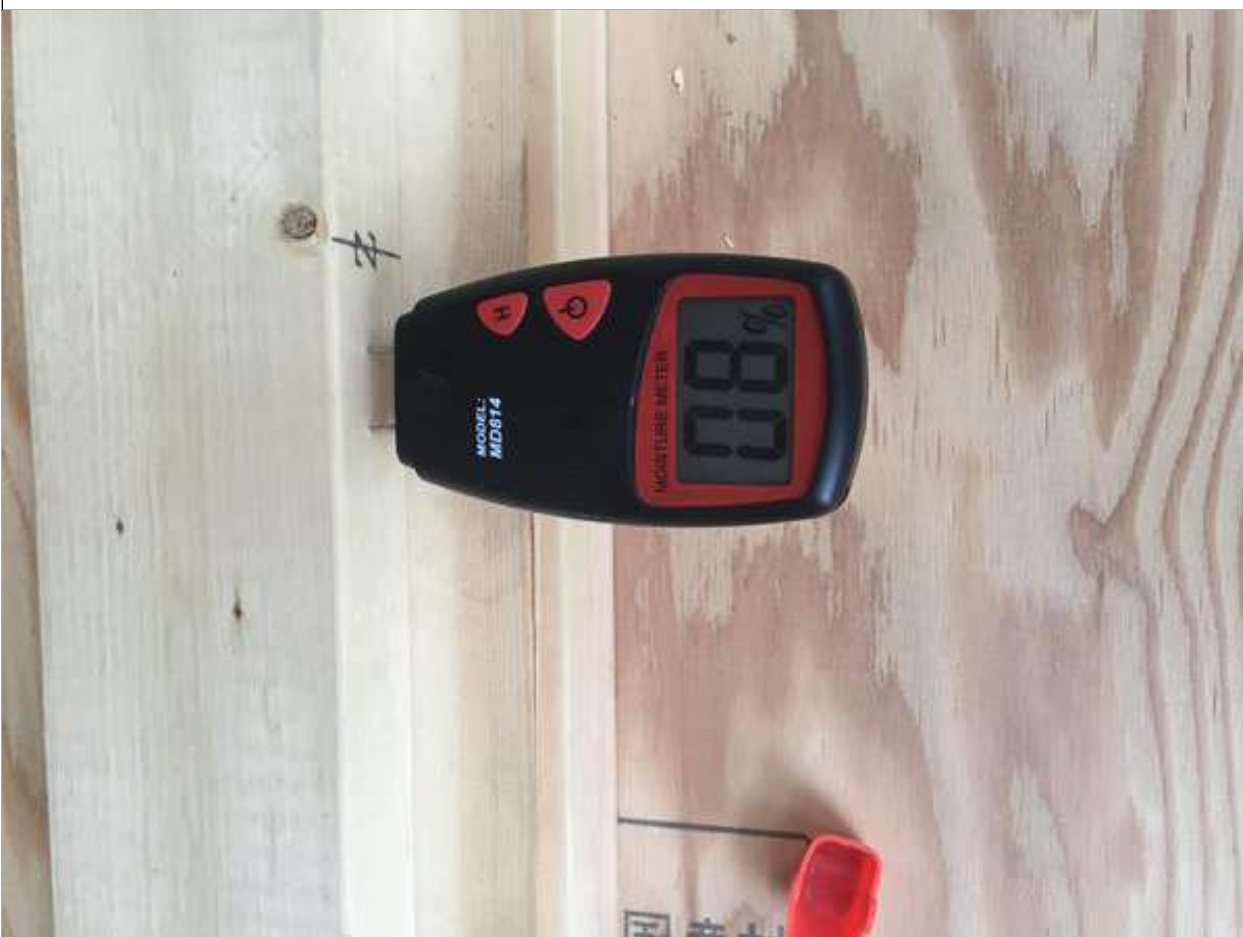
1-7口地面からの高さが1m以内の外壁の枠組の防腐・防蟻措置を現場で塗布・吹付をする。(4/4)

備考



1-8口強度の低下、乾燥後の収縮による変形、シロアリ被害の増加、カビの発生を防ぐため、施工前に床合板の含水率は15%以下か確認する。

備考



基準値
15
実測値

1-9口床下張材のくぎ打ちはCN50を周辺部150mm間隔以内、中間部200mm以内で平打ちする。床下張材の厚さが15mm以上の場合は、CN65が望ましい。

備考



1-10口外壁下張りの釘のピッチはメーカー仕様の壁倍率通りに施工する。

備考

★ ★ ★

木質ボード環境宣言・リサイクル

木造軸組工法

くぎ：N50 または
くぎピッチと壁倍率

	外周 (mm)	中道 (mm)
大壁	150	150
	100	200
	75	150
大壁床勝ち	150	150
	100	200
	75	150
真壁	150	150
	100	200
	75	150

ライン状のネイルマークは100mm・200mm
●口のネイルマークは75mm・150mmに付与

枠組壁工法

ライン状のネイルマークは100mm・200mm
●口のネイルマークは75mm・150mmに付与

大壁床勝ち

150	75
100	200
150	150
150	75
100	200
150	150
150	75
100	200
150	150
150	75

真壁

150	75
100	200
150	150
150	75
100	200
150	150
150	75
100	200
150	150
150	75

大壁床勝ち

枠組壁工法

ライン状のネイルマークは100mm・200mm
●口のネイルマークは75mm・150mmに付与

大壁床勝ち

150	75
100	200
150	150
150	75
100	200
150	150
150	75
100	200
150	150
150	75

真壁

大壁床勝ち

150	75
100	200
150	150
150	75
100	200
150	150
150	75
100	200
150	150
150	75

大壁床勝ち

1-11 外壁下張りの釘のめり込み具合2mm以内か確認する。 ※デプスゲージにて沈み込みの確認。

備考



1-12 鉄製束の下部は接着剤がはみ出るまで圧着されているか

備考



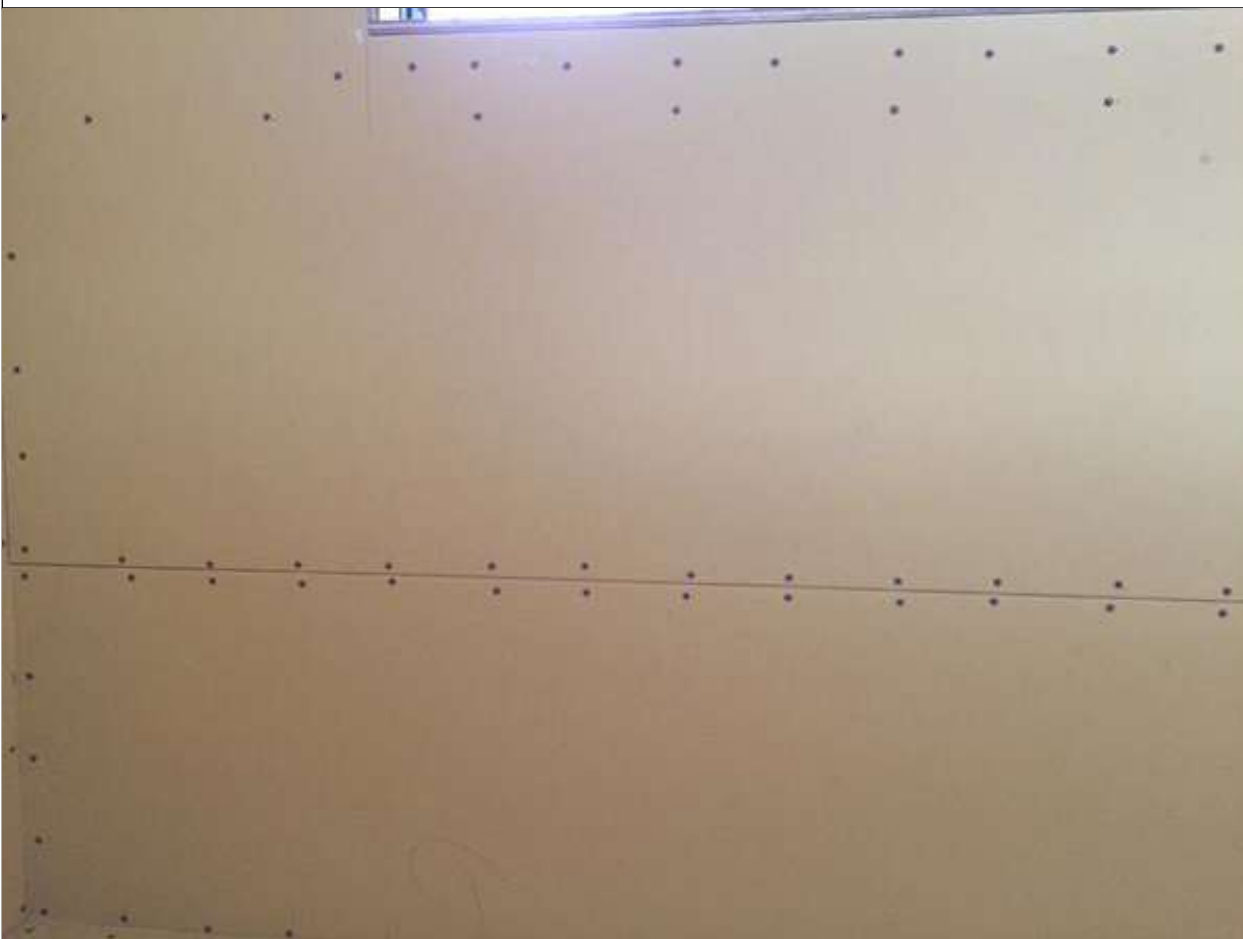
1-13口接合金物の種類・施工位置が図面通りか確認する。

備考

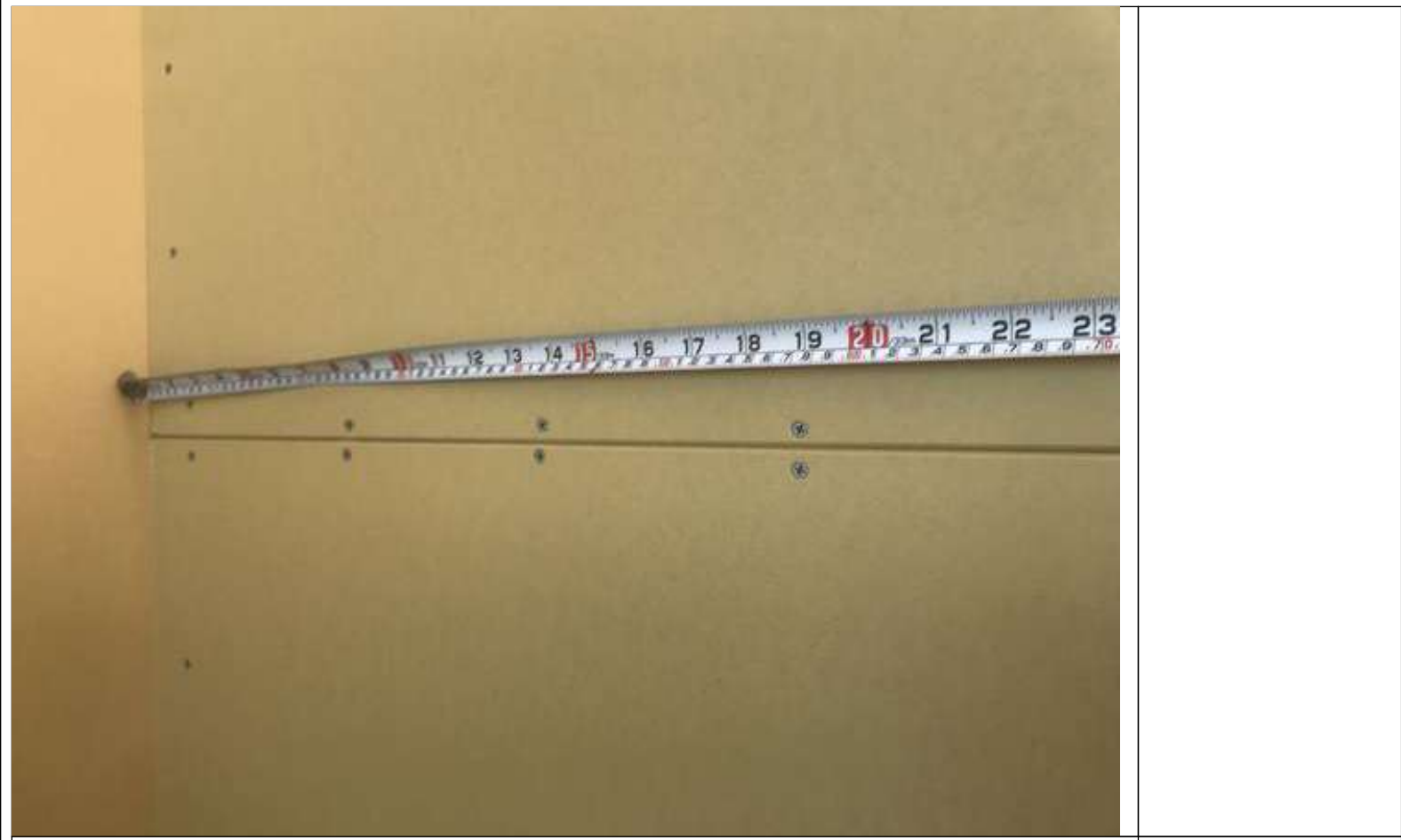


1-14 壁天井 せっこうボード張りはGNF40又はSF45を使用する

備考



1-15 くぎ打ち間隔は外周100mm以内、中間部200mm以内の間隔で留め付ける。(2枚張りの場合) くぎ打ち間隔は外周部及び中間部とも200mm以内とする。(1/2)	備考
---	----



1-15 くぎ打ち間隔は外周100mm以内、中間部200mm以内の間隔で留め付ける。(2枚張りの場合) くぎ打ち間隔は外周部及び中間部とも200mm以内とする。(2/2)	備考
---	----



1-16 壁張りに用いるせっこうボードは、床面からの湿気により強度が低下しないように床面から13mm程度離して打ち付ける

備考



1-17 壁ボードの空きは2mmを許容とする

備考



基準値
2
実測値

<p>1-18 屋根下張材のくぎ打ちは、CN50（緑）を周辺部150mm間隔以内、中間部300mm間隔以内に平打ちする。 ※屋根下張材の厚さが15mm以上の場合はCN65とすることが望ましい。</p>	<p>備考</p>
--	-----------



<p>備考</p>

<p>1-19 内側から見て屋根に外し釘かないか確認する。釘は合板端部より10～15mm離す。</p>	<p>備考</p>
---	-----------



<p>備考</p>

1-21 GNF40使用 外周部100mm中間部200mm以下か 端部は10mm
内側に

備考



1-22 建て方当時にアスファルトルーフィングまで施工する。上下（流れ方向）は100mm以上、左右（長手方向）は200mm以上重ね合わせる。（未施工の場合、ブルーシート養生する）下屋と外壁の取り合い部に関しては、建て方時にアスファルトルーフィングを先行して差し込んでおく。（ルーフィング施工前に外し釘を確認）

備考



1-23 屋根ルーフィングの立ち上がり250mm以上確保し、上端は気密テープで圧着する。かつ雨押さえ上端より50mm以上とする

備考



1-24 小屋裏換気・軒裏換気は有効な位置に設ける。

備考

